

むつ市地域おこし協力隊活動状況報告書

むつ市長 宮下 宗一郎 殿

隊員氏名 小池 拓矢

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：2021年8月分】

1. 実施した活動の概要・状況

8月は夏休みということもあり、多くの人が体験館を訪れた。地域おこし協力隊としては、小学生から大学生まで、幅広い年代の児童、学生とともに活動を行った。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、むつ市内の公共施設の一部が8月27日から9月12日まで閉鎖することとなり、体験館も臨時休館となった。この間は、館内の整理や報告書、企画書などの作成を行う予定である。

（主な活動）

◇8月1日（日） むつ市中央公民館 こどもゼミナール「むつ湾ふれあい講座」

むつ市中央公民館のこどもゼミナール事業で、むつ市の小学生14名が体験館を訪れ、磯観察等を行った。当初はカヤック体験をする予定だったが、強風により中止し、館内で貝殻などを使ったペン立ての作成をし、天気の回復をみて野外の体験に移った。

子どもたちは石切りをしたり、貝殻を探したりして、海での活動を楽しんだ。参加した子どもたちからは、「貝殻拾いが楽しかった」、「また似たようなイベントがあったら来たいです」などの感想を聞くことができた。



◇8月5日（木） 脇野沢小学校と南三陸少年少女自然調査隊の交流会

むつ市立脇野沢小学校の児童12名と南三陸少年少女自然調査隊の子どもたち6名がzoomによる交流会を行った。これは藤原ナチュラルヒストリー振興財団の40周年記念助成事業の一環であり、脇野沢小学校はカマイルカや地域について自分たちで調べたことや描いた絵の発表、南三陸少年少女自然調査隊はスライドを使って、ラムサール条約湿地である志津川湾の調査結果などの発表をした。海藻の押し葉の葉づくりでは、両地域の子どもたちが完成した作品を見せ合うなどして、交流会は終始和やかに進んだ。

両地域の子どもたちは、普段会うことのできない離れた場所にいる人たちと一緒に葉作りができて楽しかったという感想が聞かれた。最後に脇野沢小学校の校長先生から、今日の交流をはじめりとして、今後も両地域で交流を続けていきたいというあいさつで、今回の交流会は締めくくられた。



◇8月22日（日） 若者育成事業第1回ワークショップ

青森県教育委員会からの委託事業である「地域の思いをつなぐ」若者育成事業の第1回ワークショップを実施した。

むつ市内の高校生と川内町の地域の方々が一緒になって、海や森、そして川内町の魅力を発信する企画展を開催すべく、話し合いとまち歩きを行った。この日は高校生2名と地域住民9名が参加した。シーグラスのランプづくりや海の生き物とのふれあいコーナー、川内町の人やスポットの紹介など、さまざまな案が出るとともに、地元のお寺である憶念寺と泉龍寺で話を聞き、お茶の体験もご提供いただいた。

話し合った内容をもとに、11月に体験館で企画展を行う予定である。



◇8月25日(水)、26日(木) 大学生インストラクター養成事業

弘前大学の学生4名としもきた TABI あしすとおよび(株)東京堂のインターンシップ生6名に対して、カヤックと SUP(スタンドアップパドルボード) およびシュノーケリングの養成講座を2日間かけて行った。

2日間とも雨または風が強いコンディションだったため、アクティビティを体験する時間は限られたが、まずはパドルの操作に慣れてもらうことはできた。

2日目の最後にはかわうち・まりん・びーちの活用法について議論してもらったため、大学生の意見を生かしたイベントなども今後実施していきたい。



2. 翌月の活動予定

幼稚園1件、小学校2件、中学校1件、高校1件に対して、体験活動を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、延期または中止となる可能性が高い状況である。

また、川内町でのワーケーション事業は10月下旬に延期、下北ジオダイニングは中止となった。

休館中は館内整理や来月以降の企画などの準備をする予定である。

3. 特記事項

8月27日(金)～9月12日(日) 体験館 臨時休館